

今月のトピックス

- ・関係機関・団体代表者会議開催!! …《ブランドアップ関連ニュース》
- ・桃花WS花見開催 ……………《ブランドアップ戦略レポート》
- ・秋田杉カップ ……………《モノ情報》
- ・芽(め)ざせタケノコ ……………《室長コラム》

鹿角地域の業種を超えた連携が重要! ～鹿角市ブランドアップ関係機関・団体代表者会議レポート～



第1回 鹿角市ブランドアップ関係機関・団体代表者会議

鹿角ブランドアップ戦略の推進のため、5月15日(火)に今年度1回目の関係機関・団体代表者会議を開催しました。会議には市長をはじめ、県鹿角地域振興局、鹿角工業振興会、かづの商工会、かづの農業協同組合、鹿角森林組合、鹿角金融団、(社)十和田八幡平観光物産協会、秋田県畜産農業協同組合鹿角支所の計9団体の代表者らが出席しました。

会議では、はじめに鹿角ブランドアップ戦略に関連した24年度の市産業部の主要事業である、かづの産業見合市の開催や日本サッカー協会と連携したPR事業、秋田県で初めての開催となる全国桃研究大会(6月7日～6月8日)や毛馬内こもせ地

区の歴史的景観の再生整備事業、本市の多様な素材を生かした体験プログラムにより誘客を目指す(仮称)鹿角版総合博覧会等の事業概要を説明しました。

その後、ブランドアップにつながる取り組みをテーマとし、産業間連携や今後予定されている全国規模イベントでの連携や協力などについて意見交換を行ったところ、出席者からは、農商工観の連携促進など、地域内の連携促進に関し多くの意見が出ました。中でも、かづの産業見合市の開催に関しては、昨年度の開催を評価する多くの意見が出た他、この取り組みを更に強化し継続的に実施していくためには民間なども含め

産業界が積極的にリードすべき、来場者については経営者だけではなく実務担当者の参加も促し、より効果的な取り組みとすべきなどの提案が出ました。その他にも全国規模のイベント等での波及効果が一過性で終わらないよう、市内観光施設等で地元素材の自給率を高めていくための仕組みや観光客にお金を使ってもらう仕掛け作りなどの戦略が必要との意見の他、淡雪こまちや北限の桃、きゅうりなど地元農産物の販売戦略や規格外品の活用など、活発な意見交換と情報の共有が図られました。

今回の会議での具体的な意見や提案、協議内容等を今後の戦略の推進に生かし、戦略が目指す新たな産業創出や地域ブランド化に繋げていくこととしています。



成果品を展示して代表者へ報告

【鹿角ブランドアップ戦略レポート】

鹿角ブランドアップ戦略策定メンバー提案の3プロジェクト。その取り組みを毎月レポートします!!

コミュニティFM プロジェクト



コンサルタント川井さんとの打ち合わせ

5月7日、コンサルタントの川井さんを迎え、今後のスケジュール調整、確認などを行いました。その中で来年4月開局を目指すには法人の立ち上げ、収支計画書、広告などの収入見込みや機材発注のための調査等を早急に進めなければならないとのご指摘を受けました。これらを踏まえて5月18日に申請書類提出先である東北総合通信局(仙台市)に発起人代表の安保朗さんをはじめ関係機関担当者とともに現状報告を行ってきております。

今後も開局準備チーム、サポートメンバーはもちろんのこと、ボランティアを広く募りながら今まで以上の周知活動を展開していきます。

桃 花 プロジェクト



花見時WSの様子

5月12日、十和田大湯関上にあるプロジェクトメンバーの桃畑において桃の花見会を行いました。「桃の花」は、プロジェクト発想の原点であることから、桃の花の色や香りの感覚的イメージをメンバーで共有し、プロジェクトのイメージと結び付けることを目的としました。

薄桃色の花が下草の緑に映え、コントラストのはっきりした景色が大変印象的との意見もありましたが、メンバーそれぞれに抱いたイメージが、今後のワークショップ(WS)に生きてくることが期待されます。

今回を皮切りに、今年度も様々なWSを展開していきたいと思っておりますので、既存メンバーのご参加はもとよ

り、ご興味のある方は是非ご参加ください。

米 粉 プロジェクト

5月中旬からプロジェクト参加メンバー同士による事業者訪問が始まりました。これは、米・米加工品の統一ブランド化に向けた取り組みの一環として、メンバー同士が事業所等を訪問し合うことで会社等の成り立ちや特徴、商品の生産方法など様々な情報を共有し、絆を深めていくこと等を目的としています。また、今回の訪問は、参加メンバーが自社の強みや魅力等を改めて整理する絶好の機会ととらえています。

なお、今回の事業者同士の訪問等について提案して頂いた、㈱DDR・代表の安藤竜二さんが5月末に来市し、勉強会を開催する予定となっています。勉強会の様子は、次号で紹介する予定ですので、お楽しみに!

MADE in 鹿角 モノ情報

ニューヨークデビュー！ アートフォルム(有)製作「秋田杉カップ」



木目が美しい秋田杉カップ

「杉の特徴は、木の持つぬくもりと香りの良さ。乾燥するとさらに柔らかな風合いがでる。水を吸い上げる導管が太いから、素材として軽く、断熱性が高いことも特徴だよね。あと、地元の秋田杉の間伐材も使

わないもったいねっすなー。」

アートフォルム(有)代表の橋野氏は、これまで培ってきたアイデアと技術を駆使し、製作開始からわずか4ヵ月で「秋田杉カップ」を創り上げた。

“断熱性が高い”＝“中身が熱くてもカップを持てる”＝“持ったままでも氷が解けにくい”まさに、秋田杉の特徴を活かしたこのカップ。実際に手にとって見ると、手になじむ感覚が心地よい。また、微かに漂う杉の芳香が、どこか心を落ち着かせてくれる。

完成まで短い期間ながらも、橋野氏は自らの参加する展示会に持参し、お客さまの意見をモニタリングすることで、製品の使いやすさを追求したと言う。

この4月にはニューヨークの展示会でも披露され、「木の持つぬくもりと技術力の高さを理解していただくことができた」と喜ぶ。

通常工芸品の素材として、間伐材が利用されることは少ないが、橋野氏の発想力と技術力が、世界も認める逸品を生み出した。

この商品に関するお問い合わせはアートフォルム(有) (TEL0186-37-3323) まで。

とき 時空の息遣い

テマヒマ展 — 東北の食と住 —



＜東北の食と住＞をテーマとしたテマヒマ展が東京ミッドタウン・ガーデン内「21_21 DESIGN SIGHT」で開催されています。

東北の物づくりには、現代社会が忘れてしまいがちな「時間」の概念が、今なお生き続けています。繰り返し根気よく行われる手仕事。曆に寄り添い素材を準備する、自然が息づく謙虚な暮らし — 未来を考えるデザインの視点からも注目した「手間」と「ひま」(時間)のプロセス。

日本を代表するデザイナー佐藤卓氏と深澤直人氏をはじめフードディレクター、ジャーナリスト、映像作家、写真家によるリサーチと、粘り強く前向きな東北の人々との出会いが展覧会に結実します。テマヒマかけた東北の物づくりから、明日のデザインに活かすべき知恵や工夫に触れてみてはいかがでしょうか。

昨年末から取材を重ね、一流のデザイナーによる映像や展示ブースは大変クオリティーの高い展示空間を堪能できます。モノそのものが発するその息づかい、見る人の魂に語りかけます。



本市からは柳田きりたんぼ店様、漬物名人として浅石シガ様が紹介されています。

是非上京の折、この機会にご覧になってみてはいかがでしょうか。

テマヒマ展URL <http://www.2121designsight.jp/>



(仮称)鹿角総合泊覧会(鹿角版オンパク)開催準備中！

「プログラム」と呼ばれる小さな体験交流型イベントをたくさん集めて短期間に開催する「オンパク」。2001年に大分県別府市ではじまったオンパクは、地域活性化手法として注目され、今や全国40か所以上に広がっています。本市でも、この手法を取り入れた「(仮称)鹿角総合泊覧会」を、10月上旬から11月中旬までの約1ヵ月間開催する予定です。4月21日には、

別府市の観光カリスマ・鶴田浩一郎さんをお迎えして講演会を開催し、オンパクに対する理解を深めました。現在、鹿角版で実施するプログラムを企画するワークショップを開催しています。オンパク成功のカギは、できるだけ多くの市民、企業、団体に参加していただくこと。ぜひ、鹿角版オンパクに参加してください！

問 観光交流課 ☎30-0248 ㈱鹿角観光ふるさと館旅行事業部 ☎22-0520

つぶやき～コラム～

あんなに降り積もった雪が何事もなく消えたように消え、待ちに待った自然が再生し、山菜が美味しい時期がやって参りました。食卓にもチラホラと山菜料理が出始め、またまた酒がすすんでしまいます。健康に良いんだか悪いんだか…。

山菜…と言えば、多種あるなかでも鹿角はタケノコのメッカと言っても過言ではないだろう。そろそろ山道のいたる所に車の列が並び、山がラッシュアワーで賑わい始める。

そう言えば、数年前、タケノコの元となる笹の葉が広い範囲で枯れるといった現象があった。地震や火山の前触れだとか、タケノ

コの取りすぎだとか諸説色々な噂が飛び交ったものである。しかし、この笹枯れ現象というのは聞いたところによると、繁殖力の強い笹に他の樹木が打ち勝ち芽を出す唯一のチャンスが与えられる自然の摂理だという。なるほど、この現象は自然界だけでなく、我々の世界にもあることで、色々なものが現れては消えという繰り返しが日常茶飯事のように起こっている。我々が目指す「ブランド」というものと同じようなもので、世の中の星の数あるものの中で秀逸なものを見つけ、生み出すチャンスを常に目をこらし狙っていなければならないのだと思う。

「さうさ(笹)…遅かった」とならないよう常に目(芽)を凝らしておこう！(ブラードル)

【発行元】

発行 鹿角市産業連携推進室
電話 0186-30-0264
FAX 0186-30-1515
メール renk@city.kazuno.lg.jp
Twitter@KazunoRenk
Facebookページ
鹿角の【ヒト・モノ・ワザ】

